

サービス・ラーニング

課題解決型学習 (PBL: Project Problem Based Learning) の実施

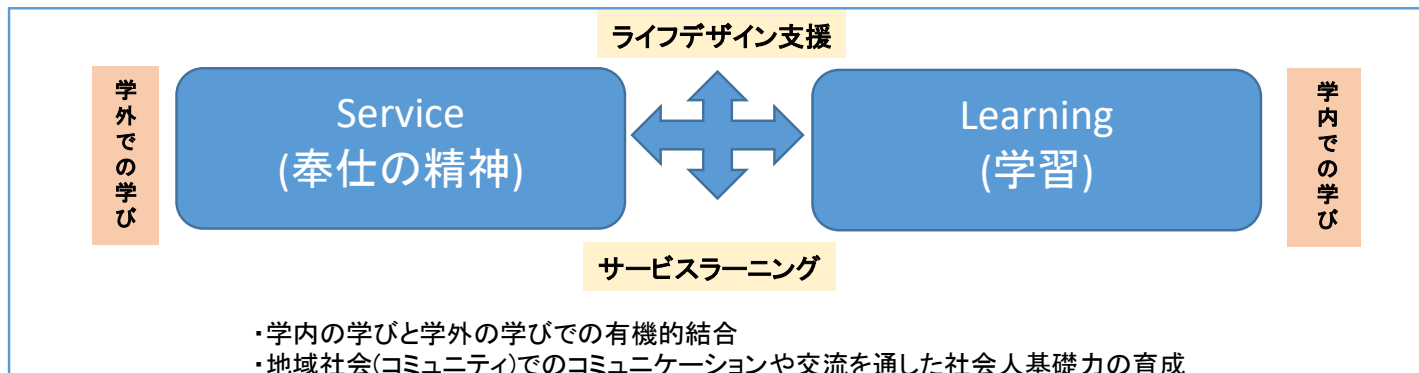
学生が主体となって地域の身近な問題を見つけ、その解決に向けて調査・分析から解決策の提示までを行う活動へ

【内容】

- ① 地域課題の調査、把握
- ② 課題解決のための内容、手段等検討 (テーマを決める)
- ③ どうしたら解決できるのか実践的・論理的的手法によって考える (解決策を考える)
自治体、公民館、関係団体との連携 → 計画書、実施のための、スケジュール調整、情報発信等
- ④ 自習的な取組、実践 → チラシ作成、参加者募集、実施
- ⑤ 新たに獲得した知識を各科目の学びへと発展させながら、ジェネリックスキルの習得を目指す。

主体的・能動的な学習 AL = PBL

◎ 主体的な学びの場を「地域課題」の中に見出し、地域の方々と協働して活動することにより連携、交流が活発化しさらには学生自らが自身の成長を実感する状況を実現することが可能となる。ステークホルダーに対して本学の学びへの信頼感を高め、地域コミュニティの「拠点」としての大学づくりを進めることができる。



【SLのスケジュール】

科目	時期	活動内容	学生の動き・活動
サービス・ラーニングⅠ	1年前期 導入期	SLの意義 活動への動機付け	身近な地域の課題に関心を向ける 活動団体、機関等の活動内容を理解する
サービス・ラーニングⅡ	1年後期 形成期	活動目標の設定 活動計画の提案	活動計画書の立案 活動先との調整(打ち合わせ) 活動計画のプレゼンテーション
サービス・ラーニングⅢ	2年前期～ 発展期 2年 11月頃まで	活動の実施	計画に基づいた活動を展開 (1回限りではなく複数回実施) 活動の中で地域の願いに気づいた部分を修正
サービス・ラーニングⅣ	2年 後期 完成期	活動の振り返り	活動中の学びを振り返る 活動目標と活動計画の達成状況の確認 活動報告会に向けたプレゼンテーション

【主な関連する機関・団体】

自治体
産業界
社会福祉法人 病院
NPO法人
教育機関等

【本学の教育プログラム上の位置づけ】

